“ゼロエミッション東京戦略 Beyond カーボンハーフ” に該当する例示

※下記に示すテーマはあくまで一例です。例示している事項以外の製品・サービスにおいても、各政策で設定した「2050のあるべき姿」の実現に寄与する商品が対象となります

※ 本助成事業の申請内容と「ゼロエミッション東京戦略」との適合性が審査項目となりますので、事務局にて、当戦略への該当の有無や、該当する分野は回答できません。

No	政策分野	製品・技術の例示
1	再生可能エネルギーの基幹エネルギー化 (2050のあるべき姿) ▶使用エネルギーを100%脱炭素化	○再エネ発電 ○再エネ導入に伴う調整力やVPP※ ○エネルギーシェアリング
2	ゼロエミッションビルの拡大 (2050のあるべき姿) ▶都内すべての建物がゼロエミッションビルに	○エネルギーマネジメント ○省エネや低消費電力に資する照明や設備、AI・IoTやネットワーク ○スマートホーム
3	ゼロエミッションモビリティの推進 (2050のあるべき姿) ▶都内を走る自動車は全てZEV化	○バッテリー等の「EV(電気自動車)／PHEV(プラグインハイブリッド電気自動車)」の素材や部品 ○充電インフラ ○バイオ燃料
4	水素エネルギーの普及拡大 (2050のあるべき姿) ▶安価なグリーン水素がパイプライン網により安定して都内広域に供給されている。産業や発電など様々な分野で活用され、都民の身近なエネルギーに	○水素の製造・貯蔵・運搬 ○再エネ由来水素 ○燃料電池
5	サーキュラーエコノミーへの移行 ～持続可能な資源利用の推進～ (2050のあるべき姿) ▶持続可能な資源利用が定着 ▶資源利用料及び資源消費量1単位当たりのCO2排出量が最小化	○リユース／リデュース／リサイクル ○環境配慮設計 ○資源循環
	サーキュラーエコノミーへの移行 ～プラスチック対策の推進～ (2050のあるべき姿) ▶CO2実質ゼロのプラスチック利用	○代替素材 ○プラスチック処理における熱回収や水平リサイクル ○海洋プラスチック除去
	サーキュラーエコノミーへの移行 ～食品ロス対策の推進～ (2050のあるべき姿) ▶食品ロス発生量実質ゼロ	○食品の需給調整・マッチング ○食品ロス削減に資する保存や加工 ○食品残渣の再生・転換等
6	フロン対策 (2050のあるべき姿) ▶フロン排出ゼロ	○自然冷媒等のノンフロン製品 ○フロンの安全な利用・回収・廃棄
7	気候変動適応策の推進 (2050のあるべき姿) ▶気候変動の影響によるリスクを最小化	○気候変動の予測やリスク評価 ○防災(豪雨・台風・暑さ等) ○自然環境(森林・水・海・生態系)の保全や効果的な利用

※ VPP…Virtual Power Plant(仮想発電所)。IoT やクラウドを活用し、あたかも1つの発電所のよう
に、需要、発電、蓄電をまとめてコントロールする仕組